陳情６　第１１号

陳情の件名

手をたずさえて、核兵器や戦争のない平和な世界の実現を！

日本政府に対して、青梅市議会として、『陳情の要旨に記した意見書』を提出して下さい

陳情の要旨

① *日本政府が　「核兵器禁止条約」の署名・批准を　速やかに実施することを要請する意見書を、青梅市議会として提出すること*

② *日本政府が「核兵器禁止条約第３回締約国会議」に参加することを要請する意見書を、青梅市議会として提出すること*

陳情の理由

【戦後60年目の年】に

私達の青梅市は、「青梅市非核平和都市宣言」を制定して、その中で「私たちは、世界唯一の核被爆国の市民として、日本国憲法の平和の精神を守り、平和を愛する世界の人々と手をたずさえて、核兵器や戦争のない平和な世界の実現を願い努力してきました」と自らの願いと努力を国内外に表明してきました。しかしその後の20年間は、その願いが一進一退を繰り返す時代となりました。

【戦後80年目の年】　を迎えて

地球の上では、戦禍に晒される人々が依然として後を絶ちません。昨年の大晦日にＮＨＫの「ゆく年くる年」では「核兵器による脅威はこれまで以上に高まっています。新しくくる年こそ、この脅威を無くす年になりますように！」と、言われる中で、2025年を迎えました。確かに情勢は厳しいですが、振り返って見ると「人類が愚かではない」ことを示したのもこの20年間でした。先達たちの「悪をする者が、この世を滅ぼすのではなく、それを見て何もしない者たちが世界を滅ぼす」という忠言を「我がこと」として受け止めて、世界各地の人々が核兵器廃絶のために一斉に立ち上がりました。特に日本被爆者団体協議会（日本被団協）の方々が、自身の体験を元に、核廃絶の悲願を訴えたことが、人々の心を大きく動かしました。これらの行動がついに国際ルールにまで到達させたのが、【核兵器禁止条約】の国連での採択でした。そしてその条約の実現のために全力で奮闘した、ＩＣＡＮ(アイキャン)や、日本被団協が、相次いでノーベル平和賞を受賞した（2017

7.1.24
青梅市

／2024）時代でもありました。　この様に時代の潮目が変わった背景には「核兵器禁止は、人道上の問題であり、国家間のバランスで考える問題ではない」と提起した国際赤十字社をはじめ、医療・科学・技術・法律等の世界の専門家集団,市民団体による国境を越えた誠実な努力の、大規模な協力がありました。いま戦後80年目の年を迎える中で、「唯一の戦争被爆国」である日本政府が、核兵器の禁止から廃絶へ世界をリードする決意を示すことが、いよいよ重要になったのではないでしょうか。

【戦後100年目の年】　に向かって

ノーベル平和賞の受賞者は、二つの未来について、次のように語っています。

★「この物語には終わりがあります」。「どのような終わりを迎えるかは、私たち次第です。【核兵器の終わりか】それとも　【私達の終わりか】　そのどちらかが起こります」（ＩＣＡＮ事務局長の発言／2017）

★「本当は世界の人々は。もう分かっているのです」（被団協の代表委員の発言／2024）

本陳情書は、主権者である私たち国民（市民）から、選挙で選ばれた私たちの代表（選良である市議会議員）へのお願い（希求）であり、思想信条の違いを超えて、採択されることを期待して提出するものです。意のある所を汲んで頂きまして、どうかよろしくお願い致します。

２０２５年　1月　２４日

青梅市議会議長　　島崎　　実　様

陳情者住所

陳情者氏名

所属団体名

[redacted]